



百年の森林事業の挑戦

森林から始まる村づくり

平成29年10月

西粟倉村の概要



人口：1,478人／592世帯／高齢化率35% (H29.3.31)

面積：57.97km² 内95%を森林が占める (そのうち85%が人工林)

予算：平成28年度一般会計決算 約26億円

森林特別会計決算 約1億円

平成16年：アンケートの結果をうけて合併協議会を離脱
＝西粟倉村自主自立の決意

百年の森林事業について

約50年生にまで育った森林の管理をここで諦めず、
村ぐるみであと50年頑張ろう。

そして美しい100年の森林に囲まれた上質な田舎を実現していこう。

こうした理念のもと、平成21年4月より百年の森林事業を開始

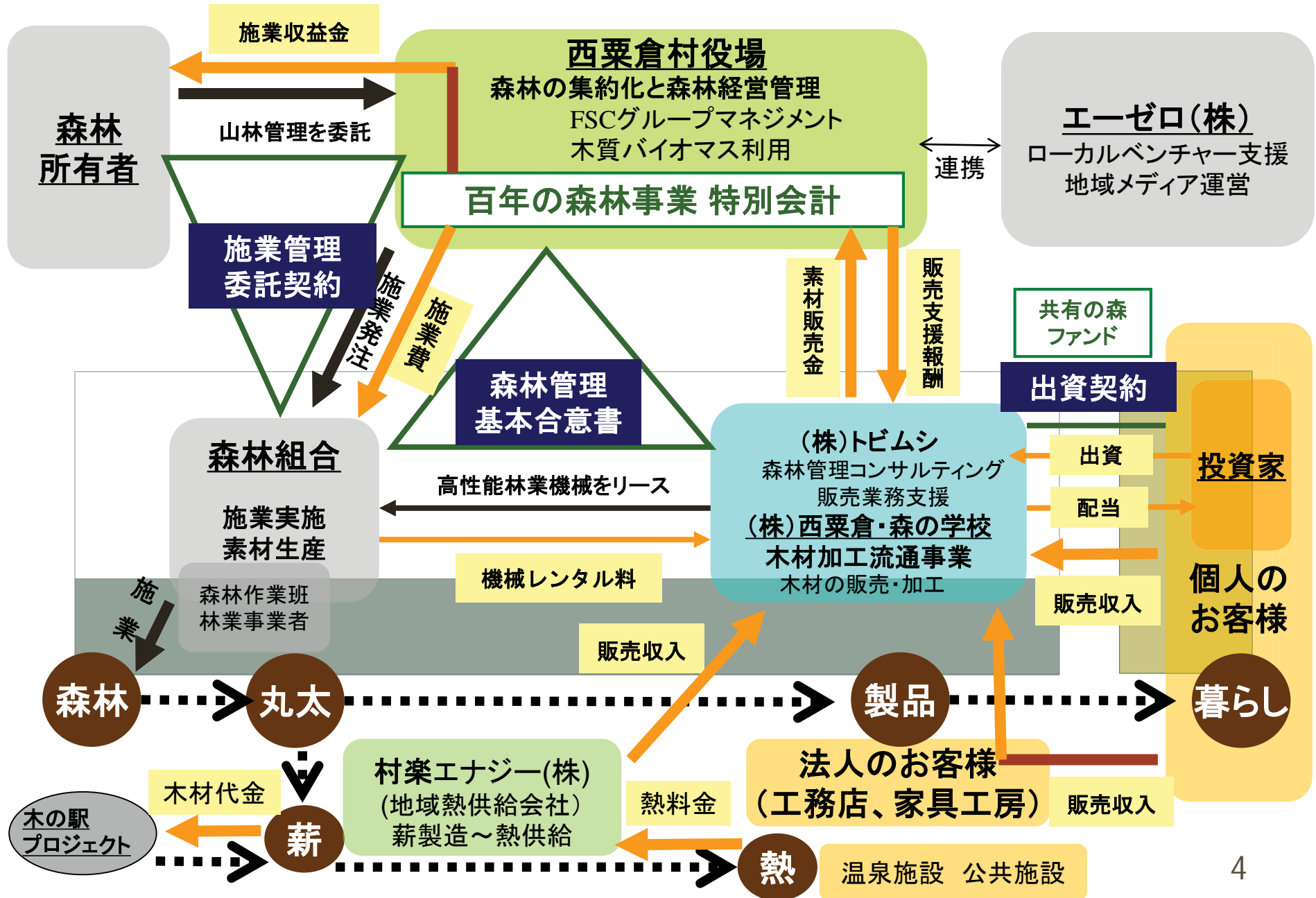
百年の森林事業	
森の学校事業 (主に(株)森の学校が担当)	百年の森林創造事業 (主に役場が担当)
森林をきっかけに西粟倉を多面的に活性化 ●間伐材を使った商品の開発・販売 ●西粟倉ファンの創出	村役場による村内森林の一括管理 ●森林管理・森林整備(間伐、作業道の開設) ●間伐材の販売 ※森の学校へ委託

森林所有者と森林管理
委託契約を締結

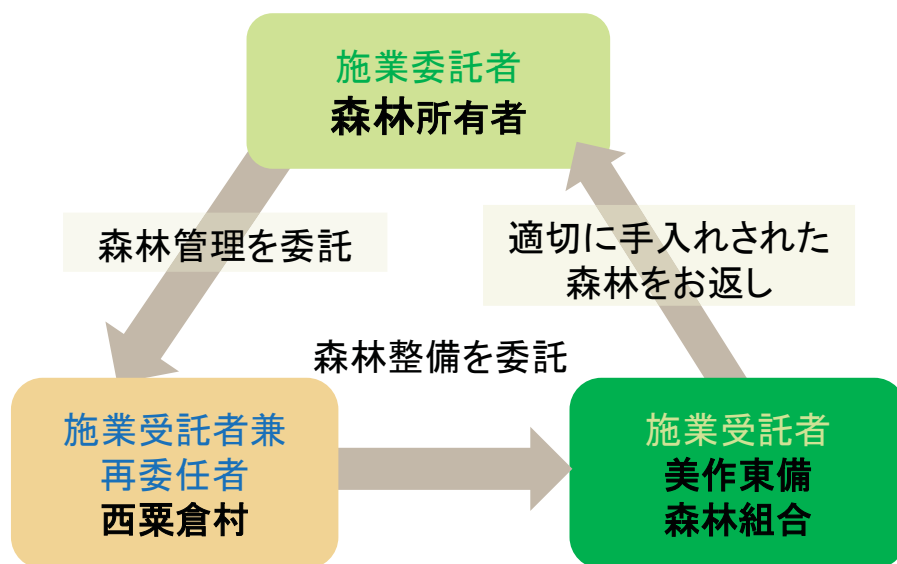
村役場が個人個人の森林を
ひとまとめにして集約化を
行い、間伐を計画

百年の森林事業 全体概要図

資料提供：岡山県西粟倉村



西粟倉村長期施業管理に関する契約



- 森林所有者、村、森林組合の三者で締結
- 村が森林を預かり、村が策定した森林経営計画に基づいて森林組合が施業を行う
- **契約期間は10年間**（更新あり）
- 所有者は山林内の木の実や山菜等を探ることはできるが、立木の伐採、処分には事前に村の承諾が必要となる
- 権利を譲渡移転する場合もこの契約は継続される
- **施業費用については役場が全て負担**
- **間伐等で発生した収益については村1/2 所有者1/2で分配**

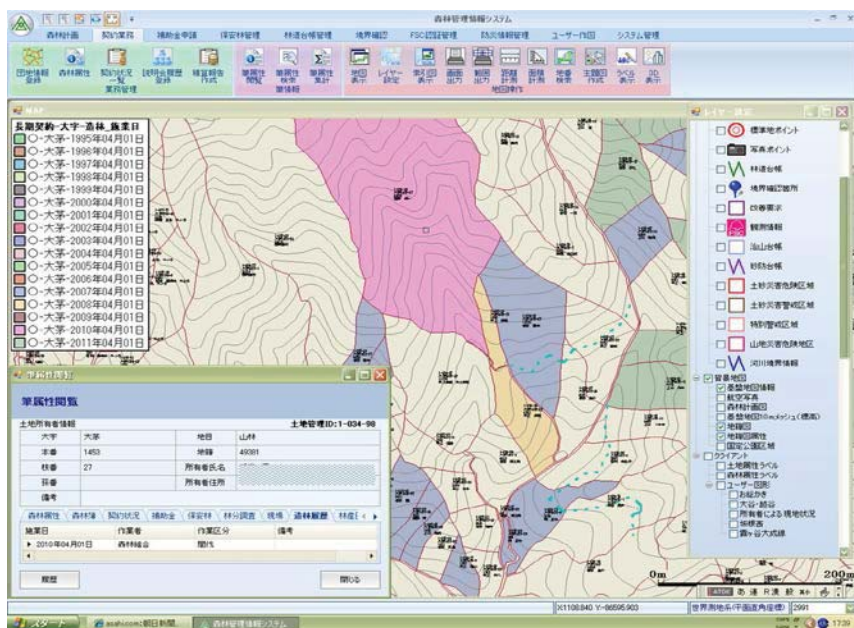
更に、契約の際に森林所有者にはFSC、森林国営保険、フォレストック認定への加入をお願いしています。

森林所有者への対応について

■ 所有者交渉

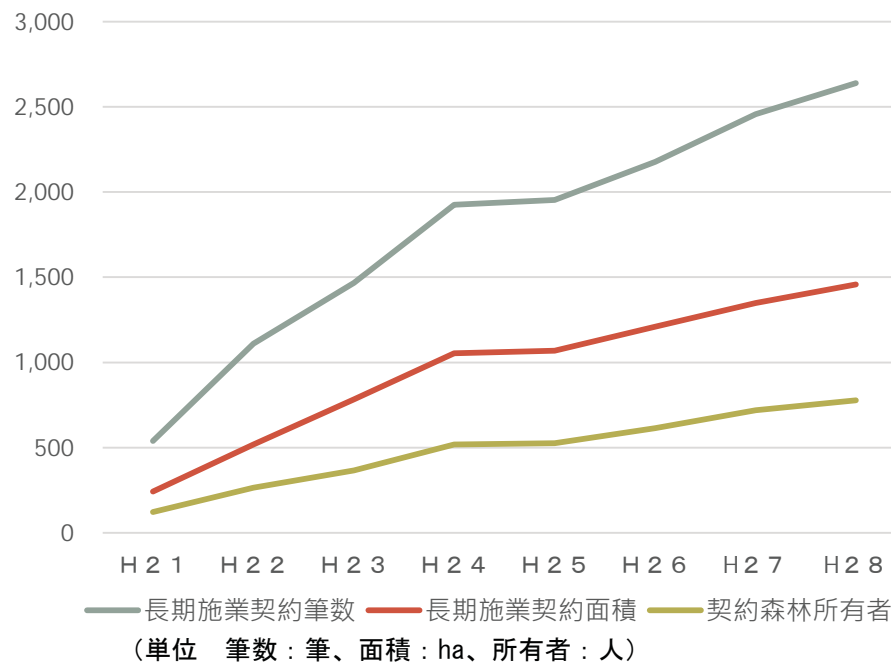
- 平成21年～平成23年 村内各地区で森林所有者への説明会を実施
- 平成24年～ 個別交渉（遠方の所有者については書類を郵送し参加を呼びかけ）

■ 所有者情報の管理



西粟倉村では昭和60年に地籍調査が完了
各地番の所有者情報や施業履歴等をGISで管理

■ 長期契約の推移



平成21年度以降累計 (H29.3現在)

2,639筆 (1,457ha、778人)

現在、契約目標私有林(約3,000ha)の半分

施業費用について

- ① 国、県の補助金
- ② 間伐材販売収益（森林所有者と分配）

百年の森林事業での木材販売方法

- ・原木市場へ流さず、森林組合土場での直接販売
（流通コスト、市場手数料の削減）
- ・森林組合で検寸を行い、(株)森の学校が全量買い取り
その後、材質に応じた売り先へ販売
- ・C材は村内熱利用

- ③ 一般会計からの繰入金（年間3,000万円ほど）

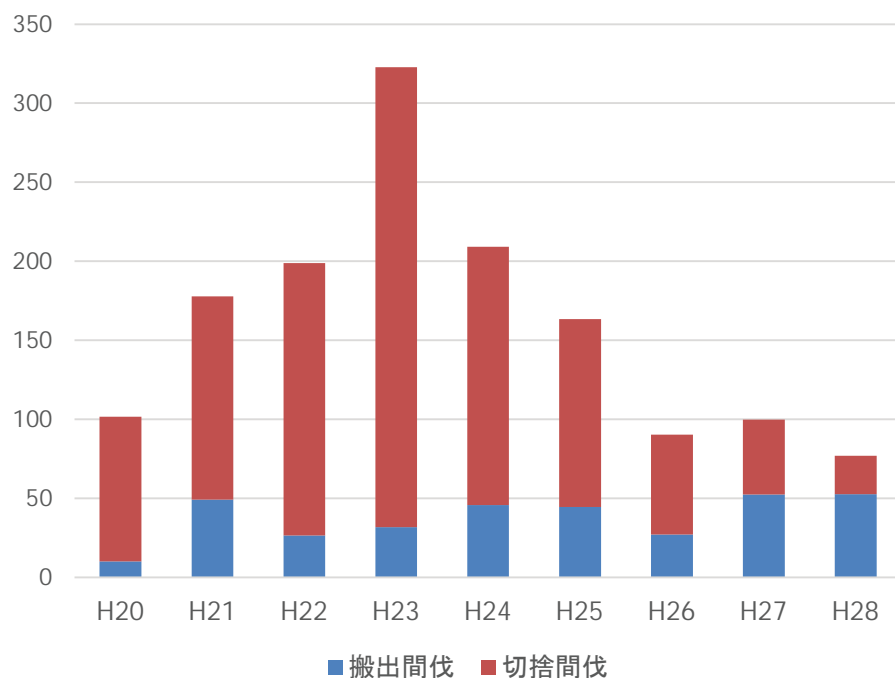
共有の森ファンド

初期投資に必要な資金を、(株)トビムシが運営する「共有の森ファンド」を活用して、小口(1口5万円 上限10口)で投資を募集。
→高性能林業機械の整備へ充当

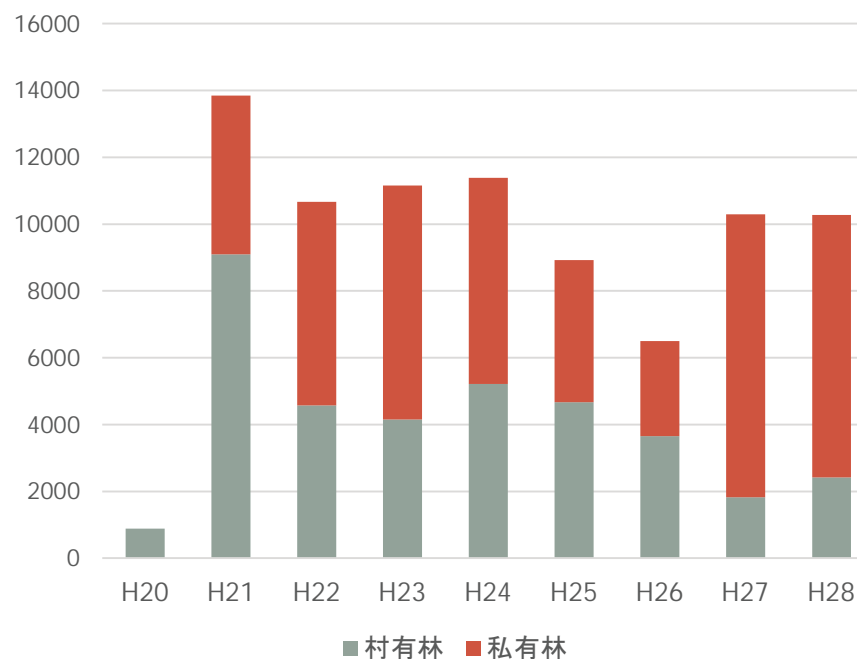
森林整備実績

平成28年度：間伐76.81ha、作業道の開設10,273mを実施
搬出材積 4,824m³

■ 間伐実績 (ha)



■ 作業道の開設実績 (m)



百年の森林事業スタート



村内のローカルベンチャー群

(株) 西粟倉・森の学校

(株) トビムシの子会社として、村の木材の6次産業化と地域へ移住・起業支援事業を主な事業とした。



村楽エナジー (株)

岡山県西粟倉村に拠点をもち、バイオマスエネルギーを中心とした再生可能エネルギーの活用を促進するためのコーディネート、実践等を行うコンサルティング会社。



木工房ようび

「西粟倉村・百年の森林構想」に出会い、そのプロジェクトの可能性に自分の未来をかけようと考えたという大島さん。



(株) 木の里工房木薫

西粟倉森林組合の合併に伴い若い職員が独立。木材加工事業をスタート



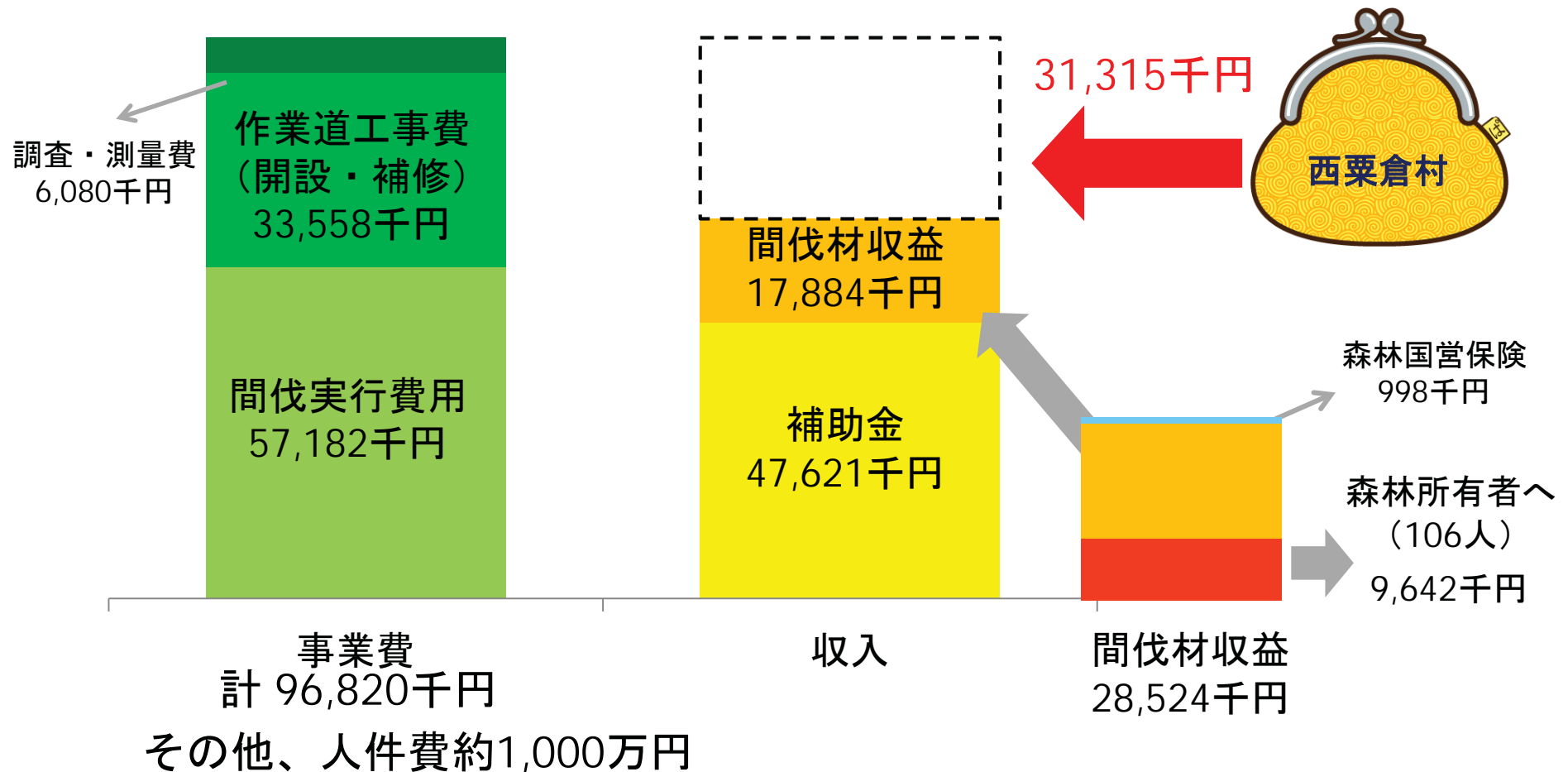
その他、森林事業以外にも村内で次々に起業
ローカルベンチャーは13社 雇用創出117名

(平成27年4月23日山陽新聞)

今後の課題

- **間伐面積、契約面積を増やす** (年間200haの間伐を目標)
- **より多くの森林所有者が森林整備に参加すること**
 - 森林整備の質の向上←H28航空レーザ測量を導入
(正確な森林情報の把握・調査、計画業務の省力化)
 - 村内林業事業体の育成
 - 森林所有者を探す労力の減少
- **木材の安定供給**
(5,000m³/年の安定的な木材搬出、最終的に10,000m³/年の達成)
- **植林適地で皆伐の実施 (持続可能な経営の確立)**
 - 育林の低コスト化
 - 獣害(鹿害)対策の検討

H28森林整備事業の収支（約76ha）



一方、百年の森林事業により
木材産業の売り上げは1億円から8億円に拡大

課題解決に向けた取り組み

株式会社 百森 構想

役場及び森林組合の業務を一手に行う民間組織「株式会社 百森」を新たに立ち上げる予定。

百年の森林を管理する専門組織として持続的な経営を行える母体を作ることが目的。

村役場 : オーバーワーク解消
所有者 : 細やかな関係性維持実現
森林組合 : 広域との意図不一致解消
製材会社 : 計画的な出材管理を実現

センターの立ち上げ担当者として2016年に実施したローカルベンチャースクール応募者2名（両名とも東京よりIターン）起用。

